



TITLE:

日本一のクラゲ天国田辺湾(8) ヨジ
レクラゲ

AUTHOR(S):

久保田, 信

CITATION:

久保田, 信. 日本一のクラゲ天国田辺湾(8) ヨジレクラゲ. 紀伊民報 2011

ISSUE DATE:

2011-02-03

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/180141>

RIGHT:

© 紀伊民報社

紀 伊 民 報

2011年(平成23年)2月3日 木曜日 第20505号 (12)

ヨジレクラゲ



変わった形のヨジレクラゲ

久保田 信

8



普段見慣れないクラゲの一つに外洋性のヨジレクラゲがいる。管クラゲ類に属しており、体のつくりが複雑で二風変わっている。ヨジレクラゲの大部分を占めるのが、ロケット型の泳鐘(えいしょう)と呼ばれる部

分である。ここは堅い寒天質でできており、内側の空洞部から海水を噴射してすいすいと泳ぐ。長さは数ミほどで五角錐(ごかくすい)をしており、他の見慣れたクラゲ類の傘の外形とはずいぶん異なっている。先がとがっていて、水切り効率もよく、泳ぎ達者なクラゲである。画像に示した泳鐘の中を前後に走っているのが体囊(たいのう)という部分である。この部分が曲がっており、これが類似した仲間との区別点である。ヨジレという名前もこの形状から付けられた。体囊の最先端には油の粒があ

り、浮遊のバランスのために使っている。

体囊の下に白い塊として見えているのが摂食用の部分で、生きがよいと糸のようなものが長く伸びる。ここには餌を捕まえるポリプ状の部分が連なる。ヨジレクラゲは海の沖合にすんでいるので飼育がとても難しい。プランクトンネットで採取しても長生きできず、死ぬと透き通るような透明の体が真っ白になる。

ヨジレクラゲのような管クラゲは、複数の形の違う個虫が集まって一つの群体を構成している。それぞれの個虫は1個の受精卵から成長したもののだが、摂食用、生殖用、遊泳用、攻撃用、防御用など特化した役割を担っている。いわば工場の製造ラインのように完全分業化している。

このような個虫を無数に連ねた別種には、世界最長の動物として知られるマヨイアイオイクラゲがいる。全長40センチを超えることもあるという。

(京都大学准教授)